

G3 のツイッター その 34

烈剛河内 竹井 保満

「一年に 一回しか参らないのに 初詣」

なる川柳を新聞紙上で見つけニタリとしました。初詣とは、新年の松の内ぐらいまでに参れば初詣だそうです。

初詣は昔から有ったようですが、この「初詣」の言葉が新聞に載ったのは、明治 18 年だそうです。これは、鉄道会社が儲けを増やす為に宣伝して、参拝客を運んだのですが、今では神社やお寺がテレビや新聞で宣伝し客を集めています。

私も初詣の梯子を毎年やりますが、変わった所で、薄田隼人のお墓参りをします。薄田隼人、別名を岩見重太郎と言い豊臣秀吉に仕えました。昨年 NHK の大河ドラマ真田幸村にも出てくる武将で、大阪城内では一番の力持ちでしたが、後藤又兵衛などの名前に隠れ、名前は出てきませんでした。天の橋立で親の仇を討つのは事実ですが、逸話に、あちらやこちらの地方で、拂々退治や山賊退治や果ては大蛇退治などの話が残っており、その豪勇振りが覗えます。

然し、大阪夏の陣で博労淵の守りを任された薄田隼人は徳川方を侮り、お女郎さん遊びをしている隙に博労の砦を破られました。それ以来、橙侍（だいだい侍）とあだ名を付けられ人気を落としました。橙は正月のお飾りに付けるミカンの事です。冬の陣では汚名返上と多勢に無勢の道明寺の合戦で奮戦の末に討ち死にします。今年も薄田隼人のお墓に「私にも力を少し頂きたい」と念じてきました。

今年も多くの方から年賀の挨拶を頂きましたが、頑張れのお言葉が沢山有りました。頑張るを語源辞典で引きましたら、眼張と、我を張るが有りました。眼張は目を付ける、見張る事で、我を張るは、文字どおり自分の考えを無理にでも通すことです。

付和雷同は中々できない爺さんなので、我を張って生きる方を選びます。

堀木エリコさんの本から、「死に様はべ選ばないが、どう生きるかは自分で選べる」を座右の銘に、我を張って今年も突き進みます。

年寄りの認知症の無謀運転では有りませんが、突き当たりそうになったら避けて下さーい。